

## 第17期第13回常任理事会議事録

**日時** 昭和48年11月26日（月）14.00～17.30

**場所** 気象庁総務部会議室

**出席者** 磯野、小平、中山、伊藤、窪田、丸山、大井、川村、二宮、神山、北川各常任理事

**報告**

1. 11月5日、東レ科学技術研究助成候補者として、角皆静男会員（北大）ほか3名、石川晴治会員（名大）ほか5名の2件を推薦した。

〔集誌〕

1. 49年度の投稿見込みを調査している。科研費の申請は480頁ですることになった。

〔天気〕

1. Vol. 21から表紙の体裁を変える。  
2. 編集事務担当者手当を増額してもらう必要がある。

〔ノート〕

1. 頒布価額が1,000円をこすような場合、価額の計算方式を改めて、通常会員の負担をできる限りおさえる。

〔講演企画〕

1. 春季講演会“大規模気象現象の予測についてのシンポジウム”を行うことに決まった。（日時、場所は未定）

〔南極〕

1. 南極における気象部門の研究観測計画については、気象研究所齋藤博英、関原強両氏から出されたものを統合して理事会に提出することになった。

テーマ：南極におけるエロゾルおよび放射による微量気体成分の研究観測（大気バックグランド汚染に関連し）

研究観測担当者：

松原広司（東京管区気象台）

後藤良三（気象研究所高層物理研究部）

**議題**

1. 学会の経理について  
増収案が出され議論されたが結論が出ず引き続き検討することになった。

なお、来年度は会費値上げをせざるを得ない事情および常任理事会での検討の状況を天気に掲載し会員に周知することになった。

2. 賛助会費について

特A20万円以上の上に、特々A50万円以上を設ける。支部で賛助会員を勧奨したときは、会費の半額を当該支部に還元する。

3. 科学研究費配分審査委員候補者推薦について

沢田竜吉会員（九大）の推薦を承認。

4. 評議員会の日取りについて

年内に管区台長会議が召集され地方理事が上京すれば開催する。また、3月までに開催できる機会があれば開く。

5. 春季大会の日取りについて

5月21日（火）～23日（木）を予定し依頼する。

6. 討論会（地方の調査研究について）の取扱いについて

天気に報告を載せ、学会としての特別な措置をとらない。

7. 日本学術会議会員選挙について

委員を委嘱し、気象学会員の有資格者に登録を怠らないよう注意を与え、洩れのないよう神山理事が総括する。経費が必要なれば事務局と打合せること。学会としての推薦候補者を選出するよう宮崎選挙管理委員長に連絡する。

8. 第6回レーザー・レーダー国際会議（1974年）の後援について

後援名義使用を承認する。

9. 支部設置の基本方針について

次回に検討する。

10. 学会事務局員増員について

種々議論されたが更に検討する。

11. 清水正義会員を気研ノート編集委員に委嘱することについて

手続き洩れだったので7月1日付けで委嘱する。

承認事項：大和田透ほか8名の入会を承認